

山梨県における「空の移動革命」実現に向けて



山梨県では、リニアと空飛ぶクルマの組み合わせによる二次交通の充実や、将来的には交通インフラの一つとして浸透することで、山梨県のポテンシャルの最大化や地域課題の解決を目指します。

なぜ空飛ぶクルマの社会実装を目指すのか？

ポテンシャルの最大化

本県は、半径50kmほどの円に収まるコンパクトな地形と人口80万人という適度な規模感、豊かな自然環境をはじめ多彩な実証フィールドを有し、そして何より東京圏から容易に行き来できる立地環境という地域特性を有しています。リニア中央新幹線の開業を見据え、こうした地域特性を活かした「ラストマイルの聖地化」や、富士山をはじめとする観光資源を活かした高付加価値化に注力しています。そして、今後、リニアと空飛ぶクルマの組み合わせにより、リニアと県内主要拠点の間を結ぶ二次交通を充実させることで、本県のポテンシャルを最大化することができると考えています。リニア開業という歴史的な好機を活かし、空飛ぶクルマの社会実装による「空の移動革命」を実現することで、世界に開かれた山梨県を目指します。

地域課題の解決

本県は、人口減少に伴う利用者減少などにより公共交通は厳しい状況にある一方で、高齢者の増加によりその果たすべき役割はより重要になっています。また、道路等の既存インフラの維持管理に今後も多額のコストが見込まれるなど、マイカー保有率の高い本県は様々な地域課題を抱えています。空飛ぶクルマの活用はこれらの課題解決につながる可能性があり、例えば、交通不便地域において自律飛行が可能な空飛ぶクルマを活用することで、担い手不足に悩む公共交通の支えとなることも期待されます。将来的には、空飛ぶクルマが本県の交通インフラの一つとして日常生活に浸透することで、マイカーの有無によらず、誰もが住み慣れた地域で豊かな生活を送ることができる山梨を目指します。

空飛ぶクルマの利活用のコンセプト

本県では、「観光」、「ビジネス」、及び「地域交通」の3つの用途で、空飛ぶクルマを活用することを想定しています。「観光」・「ビジネス」においては、リニアと空飛ぶクルマを組み合わせ新たな移動・交通手段として活用することで、新たな価値創造を目指します。また、「地域交通」においては、交通不便地域などをはじめとした地域の移動・交通手段として活用することで、地域交通課題の解決を図ります。

山梨県における空飛ぶクルマの利活用の方向性



観光・ビジネス用途では、来県者の観光地への移動や県民の出張時の移動での活用、及び地域交通用途では、地域住民の足として活用することを想定しています。

将来的な空飛ぶクルマの利活用の世界観

01. リニア×空飛ぶクルマ（観光）

移動の世界観（活用場面）

リニア山梨駅周辺、甲府エリア、及び富士北麓エリアなどを中心に交通の要衝と県内の観光エリア間を結ぶ移動網を構築します。これにより、観光客が1日よりも多くの観光地を回るできるようになります。

新たな移動体験・観光体験の提供、及び移動時間の短縮を実現するとともに、地域としての魅力向上による交流人口の増加に寄与することを期待しています。

利用者像

ユーザー属性 | << 県民 >> << 県民以外 >>

移動の目的 | << 観光 >> << ビジネス >> << 日常 >> << その他 >>

利用イメージ



02. リニア×空飛ぶクルマ（ビジネス）

移動の世界観（活用場面）

観光用途と同様に、リニア山梨駅周辺、甲府エリア、及び富士北麓エリアなどを中心に交通の要衝と県内のビジネスエリア・拠点間を結ぶ移動網を構築します。これにより、リニアも活用して遠隔地への出張時の移動時間が短縮されます。

移動時間の短縮により、ビジネスチャンス拡大をはじめ、交流人口の増加による地域経済の活性化に寄与することを期待しています。

利用者像

ユーザー属性 | << 県民 >> << 県民以外 >>

移動の目的 | << 観光 >> << ビジネス >> << 日常 >> << その他 >>

利用イメージ



03. 地域交通（日常移動）

移動の世界観（活用場面）

交通インフラの一つとして、県内全域にネットワークを構築します。普段気軽にできない郊外から市街地への移動が、より身近で日常的なものになります。

県内の交通不便地域の解消とともに、地域としての魅力・競争力の向上に寄与することを期待しています。

利用者像

ユーザー属性 | << 県民 >> << 県民以外 >>

移動の目的 | << 観光 >> << ビジネス >> << 日常 >> << その他 >>

利用イメージ



山梨県では、観光遊覧から空飛ぶクルマの利活用が開始され、リニア開業とともに2地点間を結ぶ観光・ビジネス目的の移動へと拡大、将来的には地域交通として定着することを想定しています。

空飛ぶクルマの社会実装に向けたステップ

ユースケースの拡大ステップ

本県における空飛ぶクルマは、まずは活用初期において、主に富士北麓エリアを中心とした観光遊覧サービスとして利活用されることを想定しています。次いで拡大期においては、甲府エリアや富士北麓エリアを中心に、リニアと空飛ぶクルマにより2地点間を結ぶ新たな移動モードが実現することで、観光目的やビジネス目的での利活用へと拡大していくことを想定しています。その後の成熟期においては、地域住民の足として、県内主要エリアと交通不便地域とを結ぶ地域交通として定着していく想定です。また、平時の2地点間移動などの利用ばかりでなく、有事の際には、被災者や医師の搬送、また物資輸送においても空飛ぶクルマが活用されることも期待しています。

社会実装を通じて見込まれる変化

本県における空飛ぶクルマは、「観光遊覧による利活用の開始」からリニアと空飛ぶクルマが連携した新たな移動モードの実現、そして空飛ぶクルマが交通インフラとして一般化していく形で日常生活に浸透していく想定です。リニアと空飛ぶクルマの相補的に連携することにより、県内各地と東西の大都市圏との距離が劇的に近づき、将来的には県内の新たな交通インフラとして目のように整備されることで、県内の移動がより便利になることを期待しています。さらに、空飛ぶクルマが本県に定着していなくても、運航サービスや離着陸場の運営をはじめ、関連ビジネスを担う様々な事業者とのネットワークが広がり、また、県内事業者との連携も深まることで、幅広い産業への広がりも期待されます。

山梨県における空飛ぶクルマの社会実装に向けたステップ



おわりに

県では、空飛ぶクルマの普及・拡大が、本県の目指すべき姿である「県民一人ひとりが豊かさを実感できるやまなし」の実現に寄与していくものと考えています。今後も空飛ぶクルマの社会実装に向け、国や民間企業、学術研究機関、県内外の自治体などの様々なプレーヤーと協力しながら取り組んでまいりますので、引き続き、皆さまのご理解、ご協力をお願いします。